第１回　伊豆市総合計画審議会　会議要録

日　時　令和３年３月 15 日（月）19 時～
場　所　生きいきプラザ　健診ホール
出席者　〇伊豆市総合計画審議会委員（16 名）
飯田正志会長、内田直美副会長、植田延司委員、梅原龍一委員、遠藤護委員、小長谷知恵委員、佐藤雅彦委員、志賀清悟委員、仙座夏子委員、立岩康男委員、谷村彦太郎委員、土屋秀行委員、中村優希委員、野毛貴登委員、服部保江委員、山口美奈子委員
〇オブザーバー（２名）
山下奈々美氏、大石桜子氏

****

１．開会

事務局より、資料を確認。伊豆市総合計画審議条例、伊豆市総合計画審議会規則について説明。

２．委嘱状交付

副市長より委嘱状を交付。

３．市長挨拶

市長より挨拶。

４．会長、副会長の選任

16 名全員出席のため本日の会議が成立することを事務局より報告。
副市長の進行のもと、事務局一任により、会長に飯田委員、副会長に内田委員を選任。
市長より諮問書を会長に交付。

５．議事

（１）スケジュールについて
（２）市民アンケート結果報告
資料１、２について事務局より説明。以下意見交換。

（会長）
私たち審議会の任務は、第２次伊豆市総合計画の計画期間 10 年のうち、後半５年間の基本構想と後期基本計画の案について審議を行うものである。まずは各委員からご発言をお願いする。

（副会長）
伊豆市は、前期の計画の中で、子育て支援はかなり充実してきていると思う。幼児保育もたくさんある。特に働くお母さんが増えている。病児保育や病後児保育、休日保育、保育時間の延長、受入について私立保育園は２カ月から預けることができ、公立については令和３年の４月より８カ月から受入可能になっており、色々な支援が充実してきている。一方で、アンケートをみると、もっと子育て支援をという声が出ているため、更に進めるとよいかと思う。ファミリーズという雑誌をご存知だろうか。伊豆市の子育て情報を発信しているもので、伊豆市は良いことに取り組んでいるが PR に課題があると言われていることに対し、現在、若いママやパパたちが前進していると感じるため、後期基本計画ではみなさんの求めるものを一つ一つ取り上げられたらと考える。

（委員）
　月ケ瀬の地域づくり協議会を運営し、今年で４年目になる。市から地域づくり交付金として 500 万円をもらい活動をしている。この交付金について、湯ヶ島学区は制度が始まった時から活用してきたが、月ケ瀬地区は遅れてスタートした。市は住民に対してお金を出して良く取り組んでいると思う。地域で話し合いをする中で、市への要求が沢山出てくるが、一つ一つできることをみんなで取り組もうと話をしている。地域の魅力発信のために、私自身が経験したことを話すと、月ケ瀬の国道にごみが何回も捨てられることがあった。市職員が伊豆市のネームの入った車を止めてごみを拾うのを見たことがある。そのような取組で、捨てる人を減らすことができたわけだが、地域住民が少しでも良いことしていかないと変わっていかない。私の隣の家のおばさんは、歩いてごみを拾っている。このようなことを広めることができたらと思う。地域の魅力は沢山あるんだなと思う。

（委員）
　前回も審議会委員として参加した。文京ガーデンシティが頓挫したことが残念であり、市民に上手に伝えられなかったことが課題と考える。今回は、うまく伝えることが重要と思う。福祉については、一生懸命やっていると思うが、伝えきれていない。上手く市民に伝えていくことが重要である。

（委員）
　コンパクトシティについてであるが、これは国交省の考え方に基づいており、実際には、人口が減っていく際のまちづくりをどう進めていくのか。人口が増えるのはかまわないが、人口が縮小していくと、地域はスポンジ状態になる。その穴の開いたところに市がインフラ整備をどうやってするのかが課題であり、都市計画の方で進めている。なぜ難しい都市計画を引くのかという意見もあるが、今までの１ｍの道がありさえすればよいという話では、防災の点では上手く機能しないため、全て４ｍの道路を確保する必要がある。防災拠点を設けていれば特例で実施できるため、建設部でしっかり計画をたててくれるとよい。説明会等も実施しているがなかなか理解してもらえなく歯がゆく感じている。

（委員）
　子育て支援などに一生懸命取り組んでいることはよく分かるが、少子化対策の結果が出る時には我々はこの世にいない。高齢者が住みよいまちにすることをアピールする必要がある。お年寄りもっと大事にした方がいいのではないか。安心して伊豆で生活していけることをアピールしたい。

（委員）
　今回の審議会は高校生も参加しているので、大変期待している。

（委員）
　先ほどのアンケートを見て、有効回答数が少ないと感じ、市民のみなさんはあまり興味がないのかなと思った。審議会のことはこの会に参加させていただいた時に初めて知ったが、周りの人もこのような審議会があるとは知らなかった。そのため、PR が大事だと思う。社会的弱者が住みよいまちが大事だと思う。自分も少しでも協力していきたい。

（委員）
　前回の総合計画策定の時、少子化について危機感を持って、「20 年後には更に大変なことになる」と言ったことがある。現在、令和３年になったが、少子化に対してメスを入れてきたのか、本当に少子化対策したのかを疑問に感じている。このような問題があるのでしっかり審議していこうとしても、それを検証する機能が保たれてないと、どんな話をしてもそこで満足して終わってしまう気がする。委員に委嘱された以上は一生懸命やりたい。

(委員)
　伊豆市は非常にエリアが広い。文化も違えば誘客するツールも違う。観光協会の副支部長をしているが、何でも行政にお願いをすることはいかがなものかと思っている。個々の事業所でやらねばいけないことと、そこではできないことを行政にお願いするよう線引きを決めて進めていけると良いと考える。人口動態について、各温泉場の入りが違うのはあるが、総じて働いている社員のほぼ半数は伊豆市住民でなく、移住して働いている。その人達に子どもが生まれ、学校に通わせ、高校に行かせる人もいる。不動産に関しては、旅館で寮を構えるだけでなく、アパートを借り上げて社員を住まわしているケースも多い。観光は外貨を稼ぐという単純なことだけでなく、そこで雇用を生むことが大事であり、半数が市外の方であることをご理解いただきたい。これをチャンスと捉えて真剣に向き合って考えていきたい。

(委員)
　初めて参加させていただいた。温泉場で観光事業に携わっている。アンケートでは 500 人が回答してくれており、これだけの意見を無駄にしないようにしたいと思う。

(委員)
　コロナ禍にあるが、不動産の問合せは増えており、特に老人からの問合せが増えている。また、人生の後半でまだ働いている中で、リモートができる方が増えている。若者の移住については、約 5 年前に伊豆市が修善寺地区の都市計画を変え、調整区域を無くしたことで、牧之郷や熊坂あたりで家が増えている。長男が三島や東京に行ってしまったが、意外に安いという理由で伊豆市に家を建てに帰ってくるケースもある。この先、まだまだ農地に家が建つところがあるため、このままある程度家を建てる人は帰ってくると思う。ただ、人口を増やす、地域を活気づけると考えると今動くのは老人と考える。老人が何を目的で来るかというと、畑をやりたいという人が多いが、湯ヶ島や中伊豆に農家の畑付きの家を買いたいと思っても農地法が厳しくて買えない状況である。何か法令を変えると世の中が変わると思う。注目すべきは人生後半の方々で、ここに目を向けると何か変化が起きるのではと考える。

(委員)
　伊豆市に移住して子育てしてきたが、伊豆市は住みやすいところだと思っている。ひとまず防災がポイントと考える。会議の中で防災の面で役に立てればと思う。

(委員)
　商工会会員の状況については、コロナを機に廃業された方が多い一方で、加入された方も多い。既存の事業者であっても、助成金の手続方法など知りたくて加入した事業者もいる。起業される方もいて、修善寺温泉場に多い。また、経営者に強引にひとり親方になれと言われ、仕方なく起業した方もいらっしゃった。今年に限って言えば会員数はトントンかと思われる。移住して起業する方も何人かいるので期待したい。東京から移住された方は田舎の習わし等について戸惑っていることがあった。それについても少しずつ変えていった方が良いと思う。

(オブザーバー)
　私は小学生の頃に磐田市から転校したが、転校した時、人数が少ないと思った。高齢者の住みやすい環境をつくるという意見がある一方で、高齢者の住みやすい環境だけだと活性化されない部分もあるのではないかと思った。少子化についてもっと考えて欲しい。

(オブザーバー)
　15 年間土肥地区に住んでいるが、他の地区より少子高齢化が進行している。修善寺地区より子どもも減っており、改めて少子高齢化を感じた。

（委員）
　去年の出生数について教えていただきたい。

（事務局）
　昨年は 96 人、3 月末までには出産予定者を加えると 125 名くらいになるのではないかと思う。

（委員）
　昭和 22 年のベビーブーム時には 800 人程の出生数であったが、それから比べると驚く数値である。

（委員）
　計画について、例えば、“企業誘致や子育て支援が必要”で終わっていて、じゃあどうすればよいかという議論があまりない。それを解決するためにはどうしたら良いのか。「行政が何とかしろよ」という意見が多い。“じゃあ役所で策を練ってやり、役所に事業をやらせる”ということになるが、事業者自身で事業計画や資金計画の範囲内ですればよい。補助金を出して取り組むといっても 10 年間補助金を出し続けるのは無理な話である。医療福祉など市の財政のことを考えると厳しい状況であると感じる。何とか事業を起こし、誰と誰で事業を組むのかというストーリーを示す必要がある。今までと違うストーリーを組み直すような意見を出せたらよいと思う。「こういう意見があった」「これをどういう風にすればよいか」ともっと踏み込んで考えていきたい。

（会長）
　少子化について、若い人で結婚しない人が多い。そういう子どもを育て、教育してこなかった我々団塊の世代の責任でもあり、反省しなくてはならない。彼らがどうやったら結婚するか、どうやったら子どもを産むか我々が真剣に考えなくてはならない。親のしつけがよくなかったと反省している。
　また、企業誘致について、地域に働き手がいなければ企業は来ないと考える。例えば、働き手が 200 人必要な企業で、地域に働き手がいないとなると大企業は誘致できない。小さい会社に頼んでも働き手がいなければ誘致できず、さらに、特殊な技能をもってる人がいないと誘致につながらないと考える。どのような企業を呼ぶか考えて力を合わせないといけない。

（３）総合計画前期基本計画の進捗管理について
（４）総合計画策定方針について
　ともに、事務局より資料３を説明。以下意見交換。

（会長）
　５年後の目標設定と総合計画の考え方について示している。何か御意見はあるか。

（委員）
　中学校の建設について、“普通の学校を造り、いい子供を育てよう”でなく、伊豆の中学校にぜひ行きたい、ぜひ伊豆の中学校に子供を送りたい、という生徒を集めるための構想はあるか。

（教育長）
　そこまでの生徒を集める特色とは思ってないが、ここで過ごしてよかったなという中学校を目指している。天城湯ヶ島と中伊豆から中学校がなくなることはとんでもないことであるため、伊豆市の新中学校は、それぞれの小学校で学んだ子供達の次のステージとして用意する。土肥地区については新中学校と連携するなど育てる一つのステップとして中学校を位置づけたい。地域の子ども達が魅力だなと感じるものにしたい。

（委員）
　オリンピックの話では自転車のメッカという話もあった。伊豆には日本競輪選手養成所がある。そ

のような強みも活かして自転車部を作り、中学校で練習させ、伊豆総合高校に進学するといった選手を育成していくような方法もあるのではと思う。競輪選手になりたいというニーズはあると思う。

(会長) 文教ガーデンシティが頓挫して残念だったとの話をしたが、文教ガーデンシティによって外から人が来ると思う。普通の学校のままでは良くなく、特色のある学校であれば親も喜ぶと思う。

(市長)

平成 28 年には出生数は 150 人くらいであった。これまで 200 人を目標にしてきたが、現在 100 人になってしまった。土肥や天城では絶対に小学校を無くさないようにしようと、200 人を目標としている。現在生きている我々の責任として、小学校を維持することが目標である。500 人規模の中学校ができることにより、土肥の子どもたちが諦めている野球部やサッカー部もできる。生徒の移動手段は市が確保し、土曜日は一緒に練習したり試合ができるような、伊豆市の中で選択肢がしっかり揃うまちづくりを考えている。出生数がこの５年で 100 人も減って厳しい戦ではあるが、ここが正念場として頑張りたい。風情のある２階建ての校舎とし、子ども達が移動しやすく同じ空間で生活し、ヒノキやスギを使った景観を伴うものを計画している。

(委員)

学力を高めるためには教科教室型が良いと思う。クラスは無くさず、授業については教室を変えてでも「数学教室」「英語教室」「社会教室」といった教室を作っていった方がしっかりした準備で良い教育ができると思う。天城中学校では科目の教室があって、その学科だけレベルが高かったので、教科教室型の授業がよいと思う。

(委員)

資料３の KPI について厳しい数値が出ていると感じる。市のあり方やこの課とこの課を足すなど、組み合わせていくと良い。今の内容では、他の市町の名前を書き換えても通る計画書にみえる。伊豆市はどのような仕組みで取り組んでいるのかを見えるようにしていただきたい。

公園の整備については、地域の名残・名前を使ってもらえれば良いと思う。なぜそのような名前がついているのか、行ってみようとなるかもしれない。そこに住んでみようかという仕組みもぜひやってもらいたい。子育てママの仲間づくりも取り組んでいるし、ひとり親支援も取り組んでいる、といった組み合わせで仕組みをぜひ作ってほしい。

住民税を少し下げて優遇することなどは難しいと思うため、例えば、地元の産品をプレゼントする取り組みなら地元の事業者も参加できる仕組みになるのでそのようにしていただきたい。少しお祝いをしてあげるような取組をしないと楽しみがない。そのようなしたたかさがほしい。

また、ALT が７人もいるので、英語を話せる子どもの育成は重要であると思う。様々な生き方があるので、伊豆市にこだわる必要はなく、将来羽ばたく人もいてもよいと思う。徹底的に利用して、ぜひ進めていただけたらと思う。

(委員)

ALT の話について、伊豆の国市で外国人に日本語を教えているが、現場にいる ALT から良く聞かれるのが、日本人の英語教師が日本語で自分の話をすることを残念がっていた。そのため、外国人を最大限に活かしてほしい。

(委員)

インターネットや５G については、今後の計画に織り込まれているのか。５G はこれまでできなかったことができる可能性がある。例えば、土肥の小学校で先進的な VR で東京の友達と一緒に授業が受けられ、VR で土肥を歩くこともできる。医療に関しては、オンライン診療により、高齢者が長い時間をかけて病院に行かなくてもよくなる可能性がある。それが計画に織り込まれるのかどうか。

（事務局）
東京など順々に広がってきているところである。５G が入れば順応する形にしたいが、見通しが立たないので入れてはいない。

（会長）
積極的にやりますと言ってもらった方が良い。

（委員）
伊豆市は住みやすい。これまで 10 年間僻地で住んできたが、それに比べてここは積極的だなという印象があった。しかし出会いがないのは課題である。移住や雇用に繋がる、また、高齢者への対応など多方面から検討していく必要がある。子どもが生まれてずっと伊豆市にいるとは限らない。子どもを持つ家族に移住を促すことが有効だと考える。出生数を上げて子供一人の人口増を図るだけでなく、家族の移住についても積極的に考えるとよいと考える。

（委員）
今後の主な取組にある消防団の婚活について。消防団は男性しかいないイメージで、男性しか見てないと思う。婚活といわれるとなおさら行きづらい。伊豆市の結婚相談について、相談は高年齢の人が多く、私たちが相談しにくい状況である。以前はイズシカトレインや中伊豆ではキャニオニングとバーベキューで出会いの場をつくるなど伊豆市で様々なイベントを実施しているが、そのようなさりげない出会いがよいと考える。
新中学校について、自転車部には賛成である。３日前に中伊豆に住んでいる野寺さんが伊豆市で初めて競輪選手を育てる育成学校「ガールズケイリン」の入学が決まった。野寺さんに続き、今後、自転車のビレッジになり、伊豆市が自転車に特化した町なっていくには、スポーツセンターだけでなく、教育のところから体育の授業でも特化していくとよいと考える。
高校生に質問だが、伊豆市内で就職するならばどのような仕事に興味があるか。

（オブザーバー）
美容系やブライダル、ヘアメイク系の都会にあこがれる高校生が多い。そういった職業をもっと増やしていけるとよいと思う。

（オブザーバー）
将来保育分野に関わりたいと思う。友達だと女優や芸能界に行きたいという子もいる。都会にある仕事を市内で作ってくれてもいいかなと思う。

（委員）
東伊豆町の地域おこし協力隊は東京都から移住してきて、伊豆箱根鉄道でモデルをしている。そのような仕事が実際あり、地元の人なら採用する企業も多いと思う。PR すればモデルになれる機会もある。伊豆市の人達が若い人達に視線を向けていただき、活躍できる場ができると良い。

（委員）
今何を目指していて、何をしたいのかを明確に打ち出すことが必要である。そうすれば、伊豆市で起業したいという人も出てくると思う。個別に「こういうことを推進します」ではなく「日本一の市を目指します」というメッセージがあった方が事業を起こしやすくなると思うので考えていただきたい。

（市長）
若い人からの貴重な意見がうかがえ、盛り上がってよかった。若い人たちだけで集まって早めにこのような会を開くことも考えたい。アンケートの中では、企業誘致や移住促進の意見があったが、家

を貸してくれる人がいない。よそ者が嫌いと思われる。その理由はなぜなのか御意見を賜りたい。遠藤委員から日本一の伊豆市という意見もいただいたが、そちらも整理をさせていただきたい。伊豆市は、実はチャンスはまだ沢山あり、東京のど真ん中でなくても同じ仕事ができること整理し、単に企業誘致でなく、こんなものなら夢がありますよという話を考えたい。

７．閉会

以上